

Rising Moon



卒業の 前夜に流す

涙かな

作 宮田 珠子



桃の節句も過ぎ、すっかり春めいてまいりました。保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、明日はいよいよ「卒業証書授与式」です。9年生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。「卒業は同時に新しい自分との出会い」と言われます。お子様のこれからの一步一步がより豊かな道になりますよう心からお祈り申し上げます。

ということで、今号は多くの記事が卒業特集です。ご一読ください。

卒業生の 皆さんへ

一足早い答辞 “前を向いて歩いていく”



令和6年1月1日、能登半島地震が起こり、石川県をはじめとする北陸地方で甚大な被害が起きました。その2ヶ月後、被災地の一つである石川県七尾市の中学校でも卒業証書授与式が行われ、生徒たちが新たな一歩へ旅立ちの時を迎えました。このうち七尾中学校では、136人の卒業生を代表して小田雄斗さんが、能登半島地震での被害を乗り越え歩んでいく決意を答辞に込めました。その答辞の一部を紹介しますので一読し、明日の式に臨んでください。

答辞

教室に差し込む明るい光に、春の兆しを感じるようになりました。私達を優しく照らすその光は、傷ついた能登の地にもそっと春の訪れを告げています。

「今日から中学生」ドキドキしながら臨んだ入学式からはや3年。もうすぐ私達の中学校生活が終わろうとしています。本日は私達136名のために、このような卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。私達の3年間で振り返ると、とても長い上り坂のようでした。

新しい友達がたくさんできた中学1年生。コロナウイルスによるマスク生活で、コミュニケーションが取りづらく、新しいクラスに馴染むのにはとても苦労しました。部活動での大会も少なく、制限の大きい1年でした。

《 中略 》

マスク生活から解放された3年生。友達とマスクのない顔を合わせて話せることが「こんなにも素晴らしいことなのか」と実感しました。秋には、生徒全員が初めて経験する、制限のない学校祭が行われました。「やっと制限のない学校祭ができる」喜びを感じながらも、初めは自分たちの力で成功させられるのか、不安でいっぱいでした。「学校の最高学年として、みんなを引っ張っていかなければ」そんな思いばかりが先走り、自分の仕事が進まないこともありました。

冬休みに入り、入試が迫りくる緊張感を感じながら迎えた年明け。1月1日、能登半島地震が私達を襲いました。水や電気が止まり、普段通りの生活ができない。それだけでなく、休校により、3学期が2週間も短くなったことは、受験生の私達にとって大打撃でした。「勉強できない」焦りや不安が募る中、私達を力づけてくれたのは、やはり「やればできる」という言葉でした。あれこれ考えても何も変わらない。「前を向いて、とにかく行動しよう。やればできるんだ。」と、自分に言い聞かせ、そのとき自分ができることを精いっぱいやりました。

学校が再開し、先生方や仲間と再び会うことができたときの気持ちは忘れられません。決して順調とは言えない、上り坂のような3年間。その分、気づかされたことがあります。それは私達を支えてくれる人のありがたさです。

例えば、私達の不安を吹き飛ばすエネルギーで学校祭を盛り上げてくれた後輩のみんな。コロナによる制限の中、通常通りとはいかない難しい状況でも修学旅行や部活動の大会など、私達に様々な経験をさせてくださった先生方や職員の方々。地震の後も変わらず、通学路に立ち、登校時の安全を守ってくださる地域の方々。そして、ときに喧嘩をしながらも、ここまで育ててくれた家族。地震という困難の中でも、私達が自らの道を進めるよう、支え、励ましてくれました。

この中学3年間の長くて急な上り坂を登り切れたのは自分1人の力ではありません。何度も転びそうになったけれど、そのたびに支えてくれた全ての人たちの力があつたからこそ、136名全員が今日のこの日を迎えられました。今、心からの感謝を込めて伝えます。本当にありがとうございました。

そして、もう一つ、私達が忘れてはならないのは、能登半島地震を経て気付かされた、「当たり前への感謝」です。お風呂に入れること。自分の家のベッドで眠れること。学校に来て、友達とたわいない話で笑い合えること。地震の前まで当たり前だったことも、今はとても嬉しく、生きていることへの感謝が溢れてきます。この先、私達が歩いていく道には、更なる困難が待ち受けているでしょう。きっと平坦な道ではありません。

だからこそ、私達はここに誓います。どんな困難にも諦めず立ち向かい、前を向いて歩いていくことを。支えてくれる方々への感謝。今生きていることへの感謝を決して忘れず、希望を持って進んでいくこと。

令和6年3月8日 卒業生代表 小田 雄斗

“ It Takes You ”

「人は、様々なことを夢みて、憧れることができる。
…… But it takes people to make the dream come true. (それを現実のものにすることができるのもまた、人である。)」

ミッキーマウスの生みの親、W・ディズニーは、「魔法の王国」と言われるディズニーランドをオープンするにあたり、従業員たちにこう語ったそうです。

明日で義務教育を終え、次のステップを踏み出そうとする卒業生の皆さんは、未来の自分に、夢や希望をたくさん持っていることでしょう。

それらが、これから大きく膨らんでいくことを心から願っています。でも、忘れないでください！

「It takes You! (それを現実のものにするのは、あなた自身なのです!)」



～ 巣立ちの日に ～

子どもたちは明日、それぞれが選んだ道へと進もうとしています。

大人としての土台づくりの期間が終わり、いよいよ自分が選択した道を歩き出すときがきたのです。

明日手にする卒業証書は、新しい世界へ船出するためのパスポートです。子どもたちを迎える社会は、そこが上級学校であれ、職場であれ、一人の大人として受け入れます。この人生の大きな節目にあたって、勇気と自信をもち、夢や希望の実現に向けて力強く歩み出せるよう、次の3点から、子どもの成長ぶりを確認し、前途を祝福してあげたいものです。

- I 教えてもらう姿勢から自ら学びとる姿勢へ と変身したか？
- II 自分で考え、決断し、行動する習慣 が自分のものになったか？
- III 全体の中に自分を位置づけて自分で考え、判断し、調和ある行動 がとれるか？



「死ね」「殺す」の暴言を吐く子どもの心理 II

前号で紹介した記事の続編です。今回は、「子どもが暴言を吐いたときの親の絶妙な対応5ステップ」を紹介します。実際にこのような言葉を耳にした際には、対応の参考してください。

ステップ1：悪循環の把握と「叱る三原則」を思い出す

- ① 命に関わる危ないことをしたとき
- ② 人の不幸の上に、自分の幸せを築こうとしたとき
- ③ 3回注意されても、直そうとしないとき

ステップ2：言葉の内容だけに反応せず、状況を踏まえてルールを線引きする

「死ね」「殺す」といった言葉の内容だけで叱るのではなく、どういう状況で「死ね」「殺す」という言葉を使ったらいけないのだよ、と内容と状況の両方を踏まえて、ルールを線引きして伝える必要があります。

ステップ3：イエローカードとレッドカードを使い分ける

叱る三原則の③に、「3回注意されても、直そうとしないときは叱る」とありますが、3回の注意がイエローカードであり、叱ることがレッドカードです。

ステップ4：「叱る」を実践

- ◇行動の指摘：例(無表情で目を見て)「ダメって言ってたよね？」
- ◇言い分の受容：例「どうしてそうした？ って聞かれても答えられないかもしれないって、私もわかって聞くんだけれど、何を考えてそう言ったのかな？」
- ◇適切な行動を教える：「次はこうしようね」
- ◇終戦宣言：ニコッと笑って「さ！ ごはん食べよ」

ステップ5：やっていないときに「いいね」を忘れない

事後対応より、事前対応で先手を取る方が大切です。

イライラしても「死ね」「殺す」などの暴言を吐かなかったとき、もしくは、ただ叫ぶだけで済んだときなど「ちょっとマシだった時」に、「言わなかったね」とほめることです。

「怒る」は、怒ることそのものがゴール

「叱る」は、後で「ほめること」がゴール

～ 保護者の皆様へ贈る言葉 ～

卒業を迎えた今のお子様の気持ちを表した素敵な詩(作 ひろはまかずとし さん)を紹介します。
保護者の皆様、生徒たちは照れもあり、口に出せないようですので、代わりに心からのメッセージをお届けします。どうぞお受け取りください。



《 お父さん 心から あいありがとう 》



いつもいつも 私のために おもいっきり笑い
私のために 大粒の涙を流してくれる 宇宙一 大好きなあなた
「信じているよ」 あの一言は とても大きかった
「よくやったね」 事あるごとに そう声をかけてくれましたね
「おまえならだいじょうぶ 信じて見ているよ」
あの言葉が 今日心に残っています
しかってほしい時は 必ずしかってくれたから
いつも見ていてくれるんだと 安心できたんです
やさしい事は 強い事だって あなたは生き方で 教えてくれましたね

お父さん 山よりも高い 真実の愛を 心から あいありがとう



《 お母さん ほんとうに あいありがとう 》



心の中で 時に太陽のように
そして 静かな月のように 明るく あたたかく
光をくれるあなたに 心から あいありがとう
「だいじょうぶだよ」って やわらかい手で いつも握りしめてくれましたね
ひとりでは とても持ちきれないものを
だまっていつも 半分っこして 楽にしてくれましたね
あの時は 何も言わず ただいっしょに 涙を流してくれて あいありがとう
私が悪い時には 怒らず しかってくれたこと そんなあなたが 私のじまん

お母さん 海よりも深い 本物の愛を ほんとうに あいありがとう